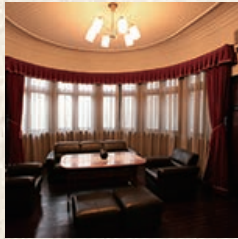


ここが見どころ
端正な洋館の奥に
本格茶室と和風庭園



旧奥野医院は、大正2年に皮膚科として開業。当初の建物は、火災で焼失したため、昭和初期に再建された。平成2年に閉院。古代ギリシャの神殿を思わせる正面中央の玄関ポーチは、優美さと荘厳さが漂う。一方、外壁には縦長窓が連なるなど、古典様式とモダニズムが融合。洋館の奥には数寄屋風の日本家屋が控え、和と洋が調和した造りになっている。



直方谷尾美術館

(旧奥野医院)

洋の病院と和の私邸、ふたつの表情

国の登録有形文化財
昭和16年頃(1941年頃)、
木造2階建、鉄板葺

〒直方市殿町10-35
☎0949-22-0038
🕒9:30~17:30(入館は17:00まで)
🗓月曜(祝日の場合は開館)
📍あり
👤一般100円、高校・大学生50円
中学生以下無料、土曜は高校生無料

直方のレトロ建築

Q.なぜ病院の建物が多いの？

やはり石炭産業と関係がある。明治期に直方が筑豊炭田の中心都市として発達すると、それにふさわしく近代的な医療機関が作られるようになった。病院は西洋医学を取り入れた象徴として洋館で建設され、医療地区を形成していた。当時の直方の経済力と都市機能の充実ぶりが分かる。また、明治大正期の町家造りの建物が多いことも直方の街並みの景観の特徴だ。



徳永邸と桜町小路

芸者衆の取次ぎを行っていた「券番」。徳永邸と桜町小路は、それに関連した建築物と考えられている。桜町小路の奥には古い堤防跡があり、人々が川を利用して往来していたことを伝えている。

〒直方市新町1-4-31
☎0949-25-2156(直方市商工観光課)



石原商店

大正15年(1926年)に建てられた木造瓦葺の商店。2階の大きな窓の下に庇を付けた小窓が並び、3層に区切られた外観。格調高い町家建築から、当時の商家の繁栄ぶりがうかがえる。国の登録有形文化財。

〒直方市殿町12-22
☎0949-22-0655



直方市石炭記念館

本館は、明治43年(1910年)に筑豊石炭鉱業組合の会議所として建築され、その後、炭鉱の救護練習施設となった時期もある。そのため本館後方には、救護練習用の坑道も現存する。市指定有形文化財。

〒直方市大字直方692-4
☎0949-25-2243



江浦医院

明治34年(1901年)に竣工した木造板張り2階建ての医院。洋風の外壁とは対照的に、玄関前には切妻風の屋根が張り出すなど和洋折衷の建築が興味深い。今も現役の医院として当時の姿を残す。

〒直方市殿町10-38
☎0949-22-0202

ここが見どころ

玄関上部のバルコニーと
北東角の塔屋
生け垣にクロスの意匠



向野堅一記念館

(旧讃井病院)

モダンな様式美に漂う風格

向野堅一
(直方市出身1868~1931)

中国近代に影響を与えた経済人で孫文の友人。飛勇の精神で修館から日清貿易研究所へ進学。日清戦争の特別任務ではただ一人生還し任務を果たした。その後、茂林洋行の社主となり、正隆銀行、満洲市場株式会社などを設立しながら満洲実業界を形成。芸術を愛し、恩義に厚い人物であった。記念館には、それらの足跡が展示されている。

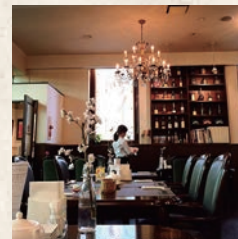
国の登録有形文化財
大正11年(1922年)木造3階建、
瓦葺、塔屋付、もと病院

〒直方市殿町12-19
☎0949-22-8008
🕒土曜10:00~16:00
📍あり
👤大人200円、小・中・高校生、70歳以上無料

向野堅一記念館は、内科・胃腸科・歯科を備えた総合病院として開業した旧讃井病院(後に小児科医院)を、郷土出身の実業家・向野堅一の記念館として活用している。木造モルタル造りの和洋折衷セセッション風建築は、当時の宮大工集団が洋館設計士の指示の下で、最高の技術を発揮した成果である。病院にふさわしく生け垣には十字架の意匠が施されている。

ここが見どころ

「辰野式」の外壁は
れんが風のタイル張り
館内には大金庫室の扉



ギャラリーレストラン Buono

レトロ建築の中で、ステンドグラスや美術品を眺めながら、ゆっくりと食事を楽しめる。ケーキとコーヒーでカフェタイムも優雅に。

〒アートスペース谷尾内
☎0949-23-1999
🕒11:30~21:00
🗓月曜(祝日の場合は営業)
📍あり(契約)



アール・ヌーヴォー 谷尾

(旧十七銀行直方支店)

大正ロマンに思いをはせて

旧十七銀行直方支店として大正時代に建設され、現在は直方市美術館別館(通称・アートスペース谷尾)としてガラス工芸品を主に展示する。重厚感のある外壁は、一見、れんがに見えるが、実はタイル張り。窓台に施された花崗岩がアクセントになっている。東京駅を設計した辰野吾氏に由来する、辰野式の赤茶色と白のコントラストが街並みに映え、今もなお地域のランドマークとして親しまれている。

国の登録有形文化財
大正2年頃(1913年頃)木造
及び煉瓦造り2階建、鉄板葺、
もと銀行建築

〒直方市古町10-20
☎0949-22-0038
🕒9:30~17:30
🗓月曜(祝日の場合は開館)
📍なし 無料

直方レトロ建築集

明治から昭和にかけて筑豊炭田の中心都市として栄えた直方。殿町地区には、当時の歴史を物語る象徴的な建物が、ほぼ一本の通り沿いに集中して残されている。